

「水の宝庫」といわれる黒部川。 大自然にはぐくまれた水力発電を知る

中部山岳国立公園内にそびえ立つ、日本一の高さ186mを誇る黒部ダム。雄大な山々ときらめく湖、眼下を流れる急峻な川など絶景に囲まれ世界的にも圧倒的なスケールを持つこのダムは、昭和史に残る世紀の大工事によって建設されました。大正時代から始まった秘

境・黒部峡谷の電源開発の歴史と関西地方の電力不足を救うため建設された「くろよん（黒部ダム・黒部川第四発電所）」について学習することによって、これからの電力と自然との共生について考えます。

秘境黒部の電源開発の歴史を学ぶ



1 黒部川電気記念館

大自然に育まれた黒部峡谷と電源開発の歩みを「水」をテーマに紹介した記念館。館内には水盤と水の流れるスクリーンに映像を映し出す「水」のテーマシアターやトロッコ電車のシアター、戦前の貴重な映像を紹介するコーナーや3Dプロジェクションマッピングを使った黒部ダム建設の映像が楽しめるコーナーなどがあり、見て、聴いて、実感できる体験型施設となっています。
〒938-0293 黒部市黒部峡谷口11
☎0765-62-1334
<http://www.kepco.co.jp/corporate/profile/community/pr/kurobe/index.html>



2 黒部ダム

高さは186mで日本一、総貯水量2億m³で東京ドーム約160個分。7年の歳月と述べ1,000万人の人手をかけ、昭和38年に完成しました。富山県の立山側（立山黒部アルペンルート）と長野県の大町側からのアクセスルートがあります。



3 黒部峡谷パノラマ展望ツアー

一般客立ち入り禁止の関西電力施設内「専用列車」「トンネル」「竖坑エレベーター（高低差200m）」体験と、北アルプスの山々を間近に展望できるルート散策ができます。

大正時代から続く電源開発の歴史を知る

急流で雨量が多い黒部川は、水力発電に適した川として、大正時代から電源開発が行われてきました。黒部川電気記念館では、黒部川の電源開発の歴史や再生可能エネルギーとして注目が高まる水力発電の役割などを学ぶことができます。

戦後の電力不足に挑んだ世紀の大事業を学ぶ

戦後の深刻な電力不足を解消するために昭和31年から始められたくろよん建設工事は、7年の歳月と延べ1,000万人もの人手を費やしました。黒部川電気記念館では映画やドラマ「黒部の太陽」でも描かれた世紀の難工事を学ぶことができます。

i information

【黒部峡谷パノラマ展望ツアー】

〈問合せ先〉(一社)黒部・宇奈月温泉観光局
〒938-0802 黒部市若栗3212-1
☎(0765)57-2850
<https://www.kurobe-unazuki.jp>

- 所要時間 約6時間
- 受入期間 期間限定(6月上旬～11月中旬の金土日)

- 体験定員 各便53人(4便/日)
- 体験料金 中学生以上5,000円、小学生(5、6年生)3,200円
- 駐車場 有(黒部峡谷鉄道に要連絡)
- アクセス 黒部ICから車で30分(黒部峡谷鉄道宇奈月駅2F)
- 備考 小学5年生以上